

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平4-222787

(43) 公開日 平成4年(1992)8月12日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
E 0 6 B 3/50		7806-2E		
E 0 5 D 15/00	D	7151-2E		
15/58	A	9025-2E		

審査請求 未請求 請求項の数1(全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平2-405499

(22) 出願日 平成2年(1990)12月25日

(71) 出願人 000005832

松下電工株式会社

大阪府門真市大字門真1048番地

(72) 発明者 江口 茂幸

大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株式会社内

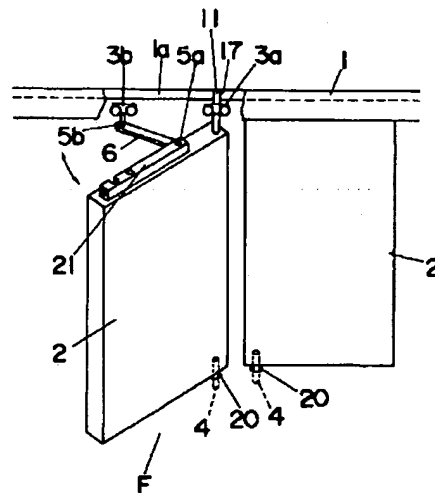
(74) 代理人 弁理士 石田 長七 (外2名)

(54) 【発明の名称】 間仕切り装置

(57) 【要約】

【目的】 間仕切り体の吊元側を中心に間仕切り体の先端部側が下がるのを防止し、上レールに対して略直交するように開き回転するのを円滑におこなえるようにする。

【構成】 吊元側ランナー3aにこれを上下方向に貫通する昇降軸11を上下方向に突出引退自在に設け、上レール1における間仕切り体2の開き回転位置に昇降軸11が嵌入される受孔17を形成する。



- 1…上レール
- 2…間仕切り体
- 3a…吊元側ランナー
- 3b…進行用ランナー
- 4…下部回転軸
- 11…昇降軸
- 17…受孔

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 上レールに対して間仕切り体がその上端に前後間隔を隔てて取付けられた吊元側ランナーと走行用ランナーとを介して吊下げ走行自在に建込まれ、吊元側ランナーとこれと略同軸上に形成された下部回転軸とを中心に間仕切り体を上レールに対して略直交するように開き回動させる間仕切り装置であって、吊元側ランナーにこれを上下方向に貫通する昇降軸が上下方向に突出引退自在に設けられ、上レールにおける間仕切り体の開き回動位置に上記昇降軸が嵌入される受孔が形成されて

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、間仕切り装置に関し、詳しくは間仕切り体を上レールに対して略直交するように開き回動させるのに、吊元側を中心に間仕切り体の先端部側が下がったりするのを防止し、間仕切り体の開き回動を円滑におこなえるようにしようとする技術に係るものである。

【0002】

【従来の技術】 従来、上レール1に対して間仕切り体2がその上端に前後間隔を隔てて取付けられた吊元側ランナー3aと走行用ランナー3bとを介して吊下げ走行自在に建込まれ、吊元側ランナー3aとこれと略同軸上に形成された下部回転軸4とを中心に間仕切り体2を上レール1に対して略直交するように開き回動させる間仕切り装置においては、図10に示すように、間仕切り体2を上レール1に対し吊元側を中心にして略直交するように開き回動させるものである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 ところが、このように吊元側を中心に間仕切り体2を上レール1に対して略直交するように開き回動させるのに、吊元側とは反対側が下がり、先端下面で床面Fを擦ったり、開き回動にがたつきが生じるなどの問題があった。本発明はこのような問題に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、間仕切り体を開き回動するのに、吊元側とは反対側が下がるのを防止するとともにがたつきなく開き回動させることができる間仕切り装置を提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明の間仕切り装置は、上レール1に対して間仕切り体2がその上端に前後間隔を隔てて取付けられた吊元側ランナー3aと走行用ランナー3bとを介して吊下げ走行自在に建込まれ、吊元側ランナー3aとこれと略同軸上に形成された下部回転軸4とを中心に間仕切り体2を上レール1に対して略直交するように開き回動させる間仕切り装置であって、吊元側ランナー3aにこれを上下方向に貫通する昇降軸11が上下方向に突出引退自在に設けられ、上レール1

2

における間仕切り体2の開き回動位置に上記昇降軸11が嵌入される受孔17が形成されて成ることを特徴とするものである。

【0005】

【作用】 上記構成によれば、吊元側ランナー3aにこれを上下方向に貫通する昇降軸11が上下方向に突出引退自在に設けられ、上レール1における間仕切り体2の開き回動位置に上記昇降軸11が嵌入される受孔17が形成されることによって、間仕切り体2を上レール1の開き回動位置において昇降軸11を上昇させて吊元側ランナー3aから上方に突出させて、昇降軸11を上レール1の受孔17に嵌入し、間仕切り体2を吊元側ランナー3a側においてその回動を保持し、つまり間仕切り体2を昇降軸11と下部回転軸4とで回動支持し、間仕切り体2を吊元側を中心に開き回動させるのに、その先端側を下げるようなことを防止し、開き回動に際して間仕切り体2の先端下部にて床面Fを擦って傷つけるようなことがなく、かつ間仕切り体2の開き回動を円滑におこなえるようにしてある。

20 【0006】

【実施例】 以下本発明の一実施例を図面に基づいて詳述する。上レール1は断面略逆U字型に形成され、そのレール側壁7の下端からランナー受片8が略水平に延出されている。間仕切り体2の上端面で吊元側とこれとは反対側の端部には吊元側ランナー3aと走行用ランナー3bを設けてあり、これらランナー3a、3bのランナーころ3cがランナー受片8上に転動自在に載設され、間仕切り体2が上レール1に対して走行自在に建込まれている。以下各々のランナー3a、3bの取付け構成を詳

30 述する。

【0007】 間仕切り体2の吊元側においては、吊元側ランナー3aが取付けられるのであり、その支持体9には横軸10を介してランナーころ3cが回転自在に支持されている。そして支持体9には昇降軸11が支持体9の上端面から突出引退自在に設けられ、つまり、間仕切り体2に軸13廻りに回転操作自在に設けた操作ハンドル12の回転操作にて中間リンク14を介してラックギア15を形成した昇降体16を昇降させて、昇降体16に取付けた昇降軸11を昇降できるようにしてある。昇降体16のラックギア15は回転自在に保持されたピニオンギヤ18に噛合し、このピニオンギヤ18には下昇降体19が啮合している。この下昇降体16には下部回転軸4が一体化されている。しかして、操作ハンドル12の回転操作にて昇降体16を介して昇降軸11を支持体9から上方に突出することで、上レール1側の適所に形成した受孔17に突入し、また、下昇降体19の下降にて下部回転軸4が床面Fに形成した回転孔20に嵌入し、間仕切り体2が上レール1に対して略直交するように回動する場合の位置決めをおこなうことができるようにしてある。吊元側ランナー3a及び走行用ランナー3

50

3

bには各々ガイドローラ3dが縦軸廻りに回動自在に保持され、このガイドローラ3dが上レール1に全長にわたって形成したガイドレール材1aに摺接走行して、振れを抑えて走行できるようにしてある。このガイドレール材1aに受孔17が形成されているのである。

【0008】間仕切り体2の上端面の中間部には揺動アーム6が縦軸5a廻りに回動自在に枢支され、この揺動アーム6の先端に走行用ランナー3bが縦軸5b廻りに回動自在に枢支されている。この走行用ランナー3bにおいてもその支持体9にランナーころ3cが横軸10廻りに回動自在に枢支されている。そして、吊元側ランナー3a及び走行用ランナー3bのランナーころ3cが上レール1のランナー受片8に載設されている。

【0009】しかし、間仕切り体2を上レール1に対して略直交するように開き回動させるのに、間仕切り体2を上レール1に対してその回動位置にまで走行させ、かかる回動位置において操作ハンドル12を回動操作させて、昇降軸11を吊元側ランナー3aの支持体9の上方に突出させて、上レール1側の受孔17に嵌入するとともに下部回転軸4を床面Fの回転孔20に嵌入させ、そして間仕切り体2を上レール1に対して開き回動させるのである。かかる間仕切り体2の開き回動において、図1に示すように、揺動アーム6が間仕切り体2に対して縦軸5a廻りに回動し、また、揺動アーム6に対して走行用ランナー3bが縦軸5b廻りに回動し、しかし、間仕切り体2は上レール1に対して開き回動させながらその走行用ランナー3bは上レール1内に残し、上レール1側に走行用ランナー3bを突出させるための開口を形成するのを回避している。

【0010】間仕切り体2の上面には側方に開口する断面コ字型の挿入受体21が取付けられ、この挿入受体21に上記揺動アーム6がその側方の開口から挿入され、そして、間仕切り体2側に設けたロック棒22をハンドル23の操作にて上昇させ、ロック棒22を挿入受体21、これに挿入されている揺動アーム6の通孔24に嵌入することで、揺動アーム6が間仕切り体2に対して揺動できないようにして、間仕切り体2が走行中に開き回動することができないようにしてある。

4

【0011】尚、ロック棒22、昇降軸11及び下部回転軸4の昇降構成は種々設計変更可能である。

【0012】

【発明の効果】本発明は上述のように、吊元側ランナーにこれを上下方向に貫通する昇降軸が上下方向に突出引退自在に設けられ、上レールにおける間仕切り体の開き回動位置に上記昇降軸が嵌入される受孔が形成されるから、間仕切り体を上レールの開き回動位置において昇降軸を上昇させて吊元側ランナーから上方に突出させて、昇降軸を上レールの受孔に嵌入し、間仕切り体を吊元側ランナー側においてその回動を保持し、つまり間仕切り体を昇降軸と下部回転軸とで回動支持し、間仕切り体を吊元側を中心に開き回動させるのに、その先端側を下げるようなことを防止し、開き回動に際して間仕切り体の先端下部にて床面を擦って傷つけるようなことがなく、かつ間仕切り体の開き回動を円滑におこなえるなどという利点がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す概略斜視図である。

【図2】同上の部分拡大斜視図である。

【図3】同上の概略正面図である。

【図4】同上の間仕切り体の一部省略した側断面図である。

【図5】図4のA部の拡大断面図である。

【図6】図4のB部の拡大断面図である。

【図7】同上の上レール及び吊元側ランナーの断面図である。

【図8】同上の走行用ランナーの断面図である。

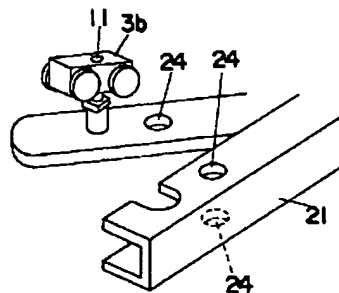
【図9】同上の走行用ランナーの平面図である。

【図10】従来例の斜視図である。

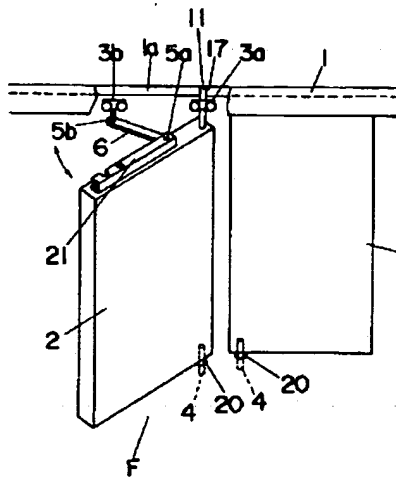
【符号の説明】

- 1 上レール
- 2 間仕切り体
- 3a 吊元側ランナー
- 3b 走行用ランナー
- 4 下部回転軸
- 11 昇降軸
- 17 受孔

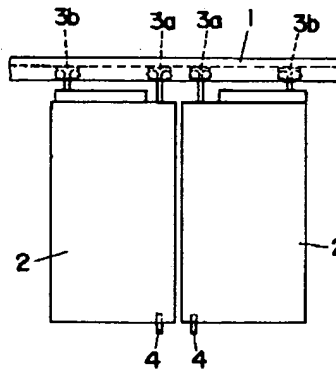
【図2】



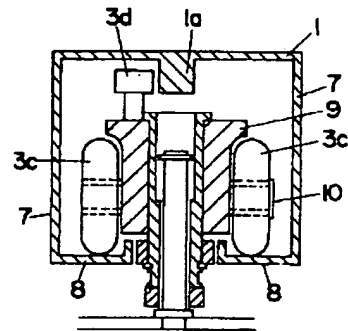
【図1】



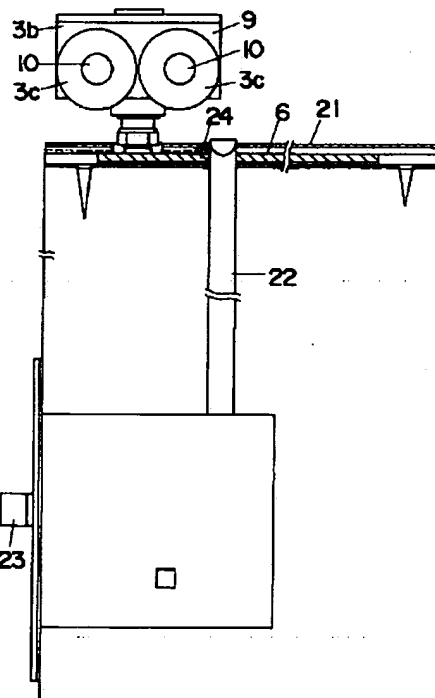
【図3】



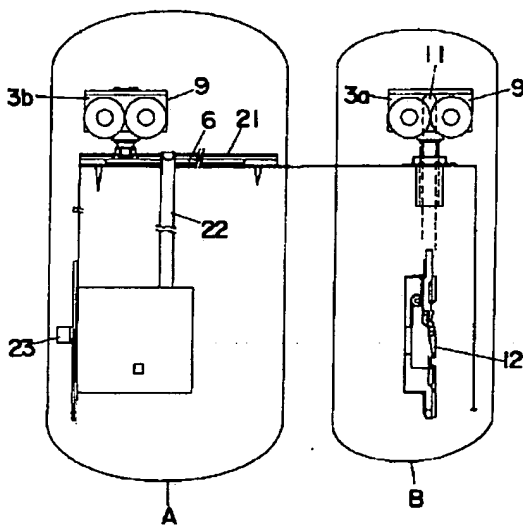
【図8】



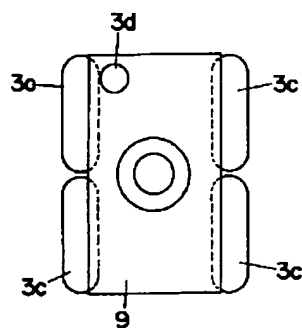
【図5】



【図4】

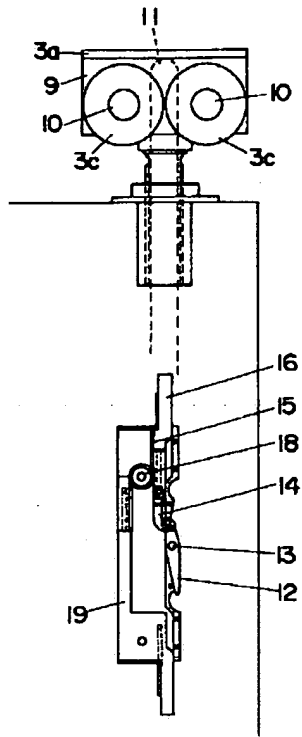


【図9】

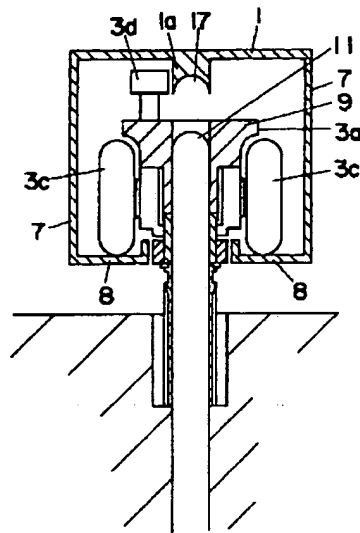


- 1...上レール
 2...間仕切り体
 3a...吊元側ランナー
 3b...走行用ランナー
 4...下部回転軸
 11...昇降軸
 17...受孔

【図6】



【図7】



【図10】

